

甲子園出場



はじめ
大須賀 創さん(3年)

そうた
杉崎 蒼汰さん(2年)

あげは
鈴木 明華羽さん(2年)

掛川西高等学校

7月29日、「第106回全国高等学校野球選手権静岡大会」で優勝し、26年ぶり6回目となる夏の甲子園出場を決めた掛川西高等学校。「実感が湧かず、足が地につかない気分でした」と優勝した当時の自身やチームの様子を話すのは3年生の大須賀創さん(東町・写真⑤)。創さんは甲子園で活躍する選手に憧れを抱き、野球を始めた。野球をする者であれば誰もが憧れ、目標とする甲子園への出場切符を手にした同部。舞い上がる気持ちを抑え、8月7日から開幕する夢の舞台へと備えた。迎えた初戦・対日本航空(山梨県)では8-4で勝利。自信をつけて臨んだ2回戦・対岡山学芸館(岡山県)だったが、緊迫する攻防を続けるも0-2で敗退してしまった。

が、この経験は良い糧となるはずだ」と夏を振り返る。

甲子園出場は選手だけで掴み取ったわけではない。1年生から3年生まで55人の選手を8人のマネージャーが支えてきた月日があってこそだ。中学時代ソフトボール部に所属していた鈴木明華羽さん(下岬区・写真⑥)は、選手経験を生かした「選手ファースト」で支えてきた。明華羽さんは「学年の壁を感じさせない仲の良さを生かしてベンチ外も含めたチーム全員でプレーしています。それが掛西の強み」と誇らしげに語る。

新体制となった同部の目標は全国高等学校野球選手権大会2年連続出場。「今大会でベンチ入りした2年生が多く、期待が高まる新チームが始動しました。秋春夏と続く大会で結果を残してほしい」と後輩にエールを送る創さん。先輩の言葉を胸に掛川西高の新たな挑戦が始まる。

夏の足跡

2024 SUMMER

今年の夏も暑い夏となった。全国、東海大会で熱戦を繰り広げた若者の姿を捉えた。

ひたむきな努力 全国3位



第55回全国中学校柔道大会出場

柔道
村越凛さん
(藤枝順心中3年)



「友だちと学校が離れるのは寂しかったけど、上を目指したい気持ちがあるにより強かった」と藤枝順心中学校進学への思いを話すのは村越凛さん(大山)。県内有数の強豪校で日々鍛錬を重ねてきた凛さんは、7月に開かれた「静岡県中学校総合体育大会」で個人、団体ともに優勝し、8月20日に開催された「第55回全国中学校柔道大会」への出場を決めた。

凛さんは、5歳のときに父・潤さんが指導者として所属するスポーツ少年団「浜岡黒潮柔道」に入団。大会に始めると凛さんの向上心に火がつき、がむしゃらに稽古を積んできた。昨年の全国大会では2回戦敗退。「県大会優勝は全国制覇までの通過点」と意気込み、臨んだ今大会。結果は個人3位、団体ベスト16。個人の部・準決勝の対戦相手とのこれまでの試合成績は五分五分、どちらが勝ってもおかしくなかった。優勝という目標には届かなかったが、「攻めの姿勢は崩さず、最後まで自分の柔道をやり切った」とすがすがしい表情で振り返る。



第10回全日本トランポリン競技ジュニア選手権大会出場

トランポリン 清水 こはるさん(御前崎中3年)



「日常では味わえない高さの世界が刺激的で楽しい」と話すのは御前崎中学校3年生の清水こはるさん(白浜区)。ビデオ審査による予選を突破し、7月25日から28日にかけて開かれた「第10回全日本トランポリン競技ジュニア選手権大会」に出場した。こはるさんが所属するのはNPOアスレチック(掛川市)。市振興公社が同クラブの指導者を講師に開く教室をきっかけに、小学4年生から本格的にトランポリンに打ち込んできた。本大会出場に向けて、ほぼ毎週県外に遠征したこはるさん。



普段と違う環境で練習することで新たな発見や学びがあるという。本大会では結果が振るわず、「披露する技の難易度が低かったことが敗因」と振り返る。現在、「タックアウト(前方二回宙返り半分捻り)」の習得が目標のこはるさん。約一年半特訓中のこの技を習得できれば、こはるさんはさらに輝きを増すはずだ。

第54回全日本中学校バレーボール選手権大会出場

男子バレーボール 大石 結士^{ゆいと}さん(浜岡中1年)



浜岡中学校1年生の大石結士さん(佐倉一区)が所属するクラブ「藤枝リアン」が、県大会と東海大会で準優勝し、8月22日から25日にかけて開催された「第54回全日本中学校バレーボール選手権大会」に出場した。小学1年生からバレーボールを始めた結士さんは小学5年生で同クラブに所属。小学生の垣根を越え、同じ志を持つメンバーと切磋琢磨してきた。結士さんのポジションは「オポジット」。「セッターの対角に位置する選手」としてアタッカーに正確なトスを上げる影の立役者だ。



全国大会2年連続出場の同クラブ。昨年のベスト16を塗り替えるためチーム一丸で臨んだ。結果は予選リーグを勝ち進んだものの、決勝トーナメント1回戦敗退。結士さんは「負けてしまったけど改めてバレーボールの楽しさを実感できました」と語る。1試合でも多く勝ちたいという意欲にあふれる結士さんの成長が楽しみだ。

浜岡中学校 女子バレーボール部



浜岡中学校女子バレーボール部は、県大会で準優勝し、8月9日から10日にかけて開かれた「第44回東海中学校総合体育大会」に出場した。主将の植木朱音さん（佐倉三区）は「新体制になってから日は浅かったけど、意識を高め合い、チーム力を上げることができた」と数カ月間を振り返る。

昨年の大会ではあと一勝のところで全国出場を逃してしまい、悲願の全国出場に向けて気合い十分で臨んだ。全国出場権をかけた試合では、県大会で勝利した西遠女子学園中学校（浜松市）と再戦。しかし、勝利をつかみ切れず、3位入賞、同部の夏が終わった。副主将の徳本ほたるさん（門屋）は「相手チームを追う展開となり、自分たちらしいバレーボールができて悔しい」と話す。

3年生が引退し、新体制となった同部をけん引するのは渡邊智央さん（上朝比奈）。智央さんは「声を出し合い、全員で盛り上げることでできるチームを目指す。笑顔で楽しくプレーすることを忘れず練習に取り組みます」と先輩の思いを胸に抱負を語った。

水泳 池田 柁央さん（浜岡中3年）



「これまで切磋琢磨してきたライバルたちと「チーム静岡」として臨んだ初めての東海大会はすごく楽しかった。まだ余韻が抜けません」と笑顔を見せるのは、浜岡中学校3年生の池田柁央さん（早苗町）。県大会で5位になり出場した「第44回東海中学校総合体育大会」背泳ぎ100mで、7位の成績を残した。

0歳から「ビクトリースイミングスクール」（菊川市）に通っている柁央さん。小学4年生のときの県大会決勝進出をきっかけに背泳ぎを専攻。最近の練習では、

体を追い込むために3時間半で10キロ泳いだというから驚きだ。柁央さんの強みは、背泳ぎにおけるスタートやターンの際の泳法「バサロキック」。鍛え抜かれたしなやかな筋肉を生かした泳ぎで一気にリードするのが快感の一つだという。来年高校に進学する柁央さんの次の目標は国体やインターハイに出場すること。現在は手の力だけで泳ぐなど上半身を強化する練習に取り組む。初めての舞台を終え、将来のために努力する柁央さんの表情は希望に満ちあふれている。

体操

市川^{ひかり}輝さん(浜岡中1年)



SSUスポーツクラブ(磐田市)で体操に励む市川輝さん(大山)が県大会で7位入賞し、8月9日に開かれた「第44回東海中学校総合体育大会」に出場した。大会では、跳馬や鉄棒、床、あん馬の4種目の総合得点を競う。

3歳から体操教室に通っていた輝さん。小学1年生のときに商業施設で同クラブ開催の体験イベントで指導者の浦野裕貴さんに勧誘され、入会を決断。各競技に初めて触れ、鉄棒で1回転をするときには恐怖心の壁が立ちはだかった。しかし、

持ち前の運動神経と度胸で乗り越え、技の習得に没頭した。輝さんは「技が決まると達成感でいっぱいになります」と顔をほころばせる。

中体連競技の4種目のほか、平行棒やつり輪にも取り組むが、一番自信がある種目はあん馬。東海大会でも一番高い点数を獲得した。「試合は楽しむことが一番大事。来年は全国大会に出場したいです」と語る輝さん。今後は、あん馬の次に得意とする床を強化していくという。軽やかに次々と技を繰り出していく輝さんの将来に期待したい。

空手

岩倉^{くうり}空凛さん(浜岡中1年)



浜岡中学校1年生の岩倉空凛さん(東町)が、8月17日から18日にかけて開かれた国際松濤館空手道連盟主催の「第44回全国空手道選手権大会」で組手の部で優勝、型の部で3位という成績を残した。

世界大会に出場するほどの実力をもつ父・弘晶さんの背中を追い、5歳のとき空手を始めた空凛さん。組手を得意とし、相手の攻撃に合わせて得点を狙うカウンターが自身の強みだと自負する。「相手の動きを分析し、状況に合わせた試合展開をすることが難しい」と語る。

本大会では前回大会の決勝戦で負けた選手が不在での優勝だった。「来年はライバルに勝って優勝したい」と改めてリベンジに燃え、週3回の稽古に自主練習を加えて体づくりに力を入れている。

父のように長く現役選手として活躍したい。そう話す空凛さんの良い知らせをたくさん受け取りたい。

